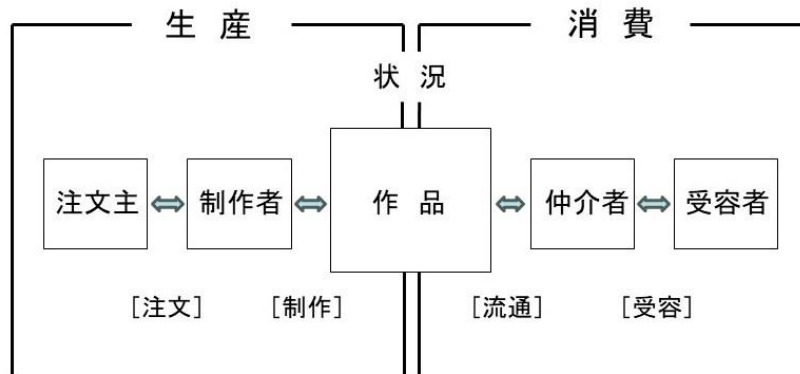


令和5年度 事業報告書
 (自令和5年4月1日至令和6年3月31日)

公益目的事業 I

一般の受容者をはじめとして、制作者や、研究者・学芸員・ギャラリスト等の文化仲介者の活動を支援することによって、美術を中心とした視覚文化の振興を図るために、次の事業を行った。



視覚文化の構造

1. 機関誌『須田記念 視覚の現場』の発行

機関誌『須田記念 視覚の現場』第9号と第10号を発行し、全国の主要図書館、美術館、美術系大学図書館、友の会会員などに無料で配布した。

2. 視覚文化に関する調査研究

令和4年度の視覚文化研究会で行った「視覚文化における写真の役割」と「東アジア絵画の近代」をテーマとする調査研究について、その成果を『美術フォーラム21』第47号と第48号として刊行し、フォーラム会員に無料で配布した。また、従来からの定期購読者のうち、図書館や美術館など、日販やトーハンなどの取次を通して購読していたものについては、醍醐書房に販売を委託した。また、令和5年度の視覚文化研究会で「像の論理」と「日本画のトポグラフィー」をテーマとする調査研究を行い、令和6年度の『美術フォーラム21』に成果を発表する準備をした。

3. 視覚文化連続講座の開講

「暮らしの中の視覚文化」という統一テーマのもとで、各界の専門家8名による連続講座を開講した。

4. 視覚文化ワークショップの開催

本財団が委嘱した研究員5名をファシリテーターとして、制作者や仲介者が、領域横断的

に意見を交換するワークショップを5回開催し、ハイブリッド方式で公開した。

5. 展覧会の支援

各地の美術館・博物館等が企画する展覧会かつ／あるいは新進アーティストが企画するギャラリー等での展覧会に対して開催経費の一部を支援する事業について、令和4年度に決定した5件の展覧会が開催された。また、10月に公募を行って、令和6年度に開催予定の2件の展覧会を選考した。

6. 展覧会の企画

本財団が企画した次の2つの展覧会について、各地の美術館等と協力して実行委員会を組織し、(1)については、令和5年10月に白沙村荘橋本関雪記念館で終了し、(2)については、10月に碧南市藤井達吉現代美術館でスタートした。

(1) 「美術と風土——アーティストが触れた伊那谷」展の開催（共催）

会場：飯田市美術博物館・辰野美術館・碧南市藤井達吉現代美術館・白沙村荘橋本関雪記念館・豊中市文化芸術センター

会期：令和5年3月より10月まで巡回予定

(2) 「生誕130年・没後60年を越えて／須田国太郎の芸術——三つのまなざし」展の開催（共催）

会場：世田谷美術館、碧南市藤井達吉現代美術館、西宮市大谷記念美術館、蘭島閣美術館、大分市美術館

会期：令和5年10月から令和6年8月まで巡回予定